

# 名古屋 文化情報

2012

4

Apr.

No.337

NAGOYA  
Cultural  
Information



## Contents

- 四月のうた・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2  
随想 相可 佐代子 声楽家 (メゾ・ソプラノ)・・・・・・・・ 3  
視点 想像力で天駆ける「かぼちゃの馬車」まどめ/はせひろいち・・ 4  
この人と・・・ 山内一生さん(上) 聞き手/田中由紀子・・・・ 6  
ピックアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8  
おしらせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9



### 表紙

作品

#### 「子供の顔-ペコちゃん」

(2001年/300mm×300mm/木板・寒冷紗・石膏地・テンペラ・油彩)

描く子どもたちに現実のモデルはいない。

描いている時に浮ぶ渾名が題名。

絵も題名も自然に生まれてくるのがいい。

#### 中澤 英明 (なかざわ ひであき)

1955年 新潟県生まれ

1981年 東京藝術大学大学院美術研究科修了

1996年 「子供の情景展」三重県立美術館

2004年 中澤英明「子供の顔」展 愛知県美術館

2006年 「内なるこども」豊田市美術館

2012年 「魔術/美術 幻視の技術と内なる異界」愛知県美術館

現在 名古屋芸術大学美術学部教授

## 四月のうた

### 記憶

なかむら まさゆき  
中村 正幸

ぼうたんを切り空間を切りとりぬ

青野ゆく息あをあをと野に返し

滴りの何かに耐へる時間かな

めつむれば記憶涼しくありにけり

淋しさや振り向きざまに夕焼けて

俳句の世界では、子規以来写生が強く主張されている。これは画家・中村不折の論を俳句にもつてきたものである。我々が夜眺めている星々は何万年、何億光年の彼方から今、地球に届いた光である。既にその星自体は存在しないかもしれない。我々は実体のないものを今見ているわけである。見ることを基本とする写生論の本質が揺らぐことになる。見ることの不確かさ、見ることに絶対性を求めることの危うさを思う。心眼を磨く必要がある。

(「深海」主宰)

## 随想

## ドビュッシーの音楽 ～街が奏でる音色～



おおかさよこ  
相可 佐代子

声楽家（メゾ・ソプラノ）

今年2012年は、フランスの作曲家ドビュッシー生誕150年。彼は、パリから郊外線に乗って30分ほどの街、サン＝ジェルマン＝アン＝レーに生まれました。現在、生家は博物館と街の観光案内所になっています。

私がドビュッシーの曲を初めて知ったのは大学生の頃、歌曲『星の夜』という、彼が18歳に発表した作品を勉強したときのこと。まだ学生の私は、正直、なんてつまらない曲なんだろうと内心テンションが下がっていました。それから何曲か彼の作品を歌ってはみたものの、自身の未熟さからどの曲も彼独特の魅力を見出すことができませんでした。

しかし、その後フランスに渡り、それまでドビュッシー作品に抱いていた「よくわからない感覚」が一気に吹っ飛んだのを今でもよく覚えています。いや、「よくわからない感覚」がわかったわけではなく、その感覚を初めて感じる事ができた・・・というのが正しいのでしょうか。

私がシャトレ劇場の研修生だった頃、歌曲集『ピリティスの歌』に出会いました。この歌曲集はベルギー生まれの詩人P・ルイスの散文詩で、ピリティスという少女が恋愛を通して成長していく様を描いています。この曲の前奏を劇場音楽監督がピアノで弾き始めたとき、「今までにない感覚」、たった3小節ほどの前奏がまるで夕暮れのけだるさと、ピリティスの恋のは

じまりの緊張感を見事に表現していたのです。ドビュッシーは自由な和声法を用い、巧みな音階技法によって曲を作っていますが、もちろんそのことだけで片付けられる音色ではないのです！大学生の頃に下がったテンションは一気に上がり、それ以来ドビュッシーの作品、音色が大好きになりました。

この音色、この感覚はいったいどこからやってくるのだろう・・・。一般には絵画からきた印象主義音楽といわれています。もちろん、その影響は大きいけれど、私はパリという街がその音色を生み出しているのではないかと思うのです。香水とカフェの入り混じった何とも言えない街の香り、恋人たちのささやき、素晴らしい建造物、セーヌ川のほとり、時間の流れ・・・。

私は幸運にも生活の中でこれらを感じる事ができました。「今までになかった感覚」が歌に及ぼす影響はどのくらいあるのだろう。2010年のリサイタルで歌った、この『ピリティスの歌』。パリで感じた感覚・・・私にはどこまであの音色が表現できたのか。

今までもこれからもこのドビュッシーの音色を追求し、少しでも聴いていただく方に伝える事ができたら。また、追求する音色は目には見えないけれど、これからもどのように感じる事ができるのか、楽しみです。

## 想像力で天駆ける「かぼちゃの馬車」

ミュージカル「シンデレラ」が盛況のうちに幕を下ろした。年に一度の名古屋市文化事業団企画公演として28回目を数える本公演は、地元で出演者オーディションを行い、地元スタッフ中心に作り込まれる試み。観る側からすれば「恒例の」と括りがちだが、その座組みにはその年ごとの出会いがあり、その年ごとの現場がある。本公演を振り返りながら、今年ならではの演出成果を探ってみた。(まとめ:はせひろいち)

### 「演出家・永井寛孝氏」への共感

最初に断っておくと、この文章を書いている僕自身が小劇場肌の間人であり、ミュージカルに関して専門的な眼も知識も持っていない。ゆえに以下は個人的な感想であり、間違っても劇評のようなものではないのでよろしく。

一言で言えば「嫌味の少ないフラットハイな舞台」だったと思う。決して大胆な戯曲の新解釈や、斬新なアイデアで観客の肝を抜く仕掛けがあるわけではない。それでいて原作の持つ軸に寄り添いながら、古さや堅苦しさを感じさせない舞台だった。自分の演出経験からすると、これって簡単そうで、なかなかできることではない。

「舞台ってのはやはり不自由な要素が多くてね。同じファンタジーを目指しても映画やアニメのようにはいかない。もちろんワイヤーで役者を吊るような派手な演出もあるでしょうが、僕はそれを使わず空を飛ばせたいタイプ」と語るのは演出の永井寛孝さん。もちろんシンデレラに空を飛ぶシーンはない。役者と観客の想像力の話である。そして、シンデレラという誰もが知っているストーリーの中で、コメディの要素を貫きながら、観る者を自然に引き込んでいく手法は、この観客の想像力を信じた上での細やかで「目立たない」計算と遊び心に裏打ちされていた。同業者として共感を覚える。



「シンデレラ」演出について語る  
永井寛孝氏

### 細やかさと大胆さのさじ加減

例えば義理の母姉たちが舞踏会に出かけた後のシーン、残されたシンデレラは魔法使いの訪問を受けてなお自信なさげだ。舞踏会への憧れ、これからの自分の未来に対して、具体的な夢を抱きながら、形にする勇氣は持てず、いつも通りネズミたち相手に、空想の世界だけで満足し

ようとするシンデレラ。上演台本をも手掛けた永井さんの「目立たないが確実なアレンジ」がココにある。「日本人のどこにでもいそうな女の子にしたかった」という永井さんの言葉通り(詳細は本誌12月号のP10参照)シンデレラの表情からは、現代社会の「引きこもり」に共通する若者達の姿さえ垣間見れた。



舞踏会シーン 王子とシンデレラを囲む女性たちは  
黒い案山子と踊っている。

一方、舞踏会のシーンでは、ペアを組んで踊るはずの男役が、全てシンプルで図形的な「黒い案山子のような」人形である。女優たちがそれを持って踊るのだが、限られた舞台空間では大変有効で、無理して男優を登場させるより、むしろ女優陣の揃いの幅広ドレスが所狭しと舞台を埋め尽くす光景となり、十分舞踏会の空気を作り出していた。聞けばこのシーンなどは現場で、スタッフとの意見交換の中で生まれたという。柔軟かつ大胆な演出術のあらわれと言えるだろう。

まだ劇場入りする前の永井さんに、愚問は承知で「今回の見どころ」を質問した時のこと。永井さんは普段通りの悪戯っぽい笑顔で「ああ、それはネズミの人形ですね」と即答。シンデレラを囲む4匹のネズミは、最初の1匹が袖幕から姿を現した(極限まで絞ったピンスポで登場し笑いも起きていた)後は、黒子の人形づかいが登場する。使い手と人形が視線や立ち姿を共有する、いわゆる「出づかい」の手法である。「僕がまだ愛知県在住だったころ、舞台との出会いは人形劇だったんです。そのルーツ的なこだわりもあるし、何しろお世話になった人形劇の大先輩が見に来ますからね。手が抜けないですよ」と笑う永井さん。もちろんネズミ達はこの舞台のために製作され、黒子の扱いやすさも考慮しアレンジが重ねられた。「シン



「出づかい」の手法で登場するネズミの人形

と永井さん。登場人物が紡ぐリアリティーの拾い所と捨て所、そのさじ加減に自信がないと言えない言葉だと感じた。実際この4匹は、これまた人形仕立てのかぼちゃを担いでテーブルから奥の飾り棚へと走り、窓の外へダイブする。シンデレラの部屋の舞台装置がゆっくり袖に移動すると、そこには4匹の馬と立派な馬車が待機している。遊び心に満ちながら、舞台の限られた機構を生かし、先に述べた客の想像力に余分な隙を作らない、粋な転換になっていた。このシーンも、登場時からのネズミの存在感の積み重ねがあってはじめて成功したと思われる。



ネズミ(人形つかい)とシンデレラが変身するかぼちゃの馬車の登場シーン

## 「原作ありき」の壁をも超える遊び心

原作は言うまでもなくロジャース & ハマー斯坦のNYゴールデンコンビによる名作。1957年TV初演はジュリー・アンドリュースが演じた。セントラル愛知交響楽団による生のオーケストラが奏するのは巨匠ロジャースのスコアであり、簡単にアレンジできるものでもない。「大きなブロックでカットはできても、舞台転換や芝居の尺に合わせるような都合よい調整はなかなかできませんからね。それに生オケの素晴らしさをちゃんと味わってほしいという欲もあって」(永井さん) 舞台冒頭の楽曲は、舞台を動かさず、ただただフル楽曲を全部聞いてもらった。逆に2幕から3幕の転換では、つなぎの1シーンを永井さんは追加した。原作には描かれていない「シンデレラ、お城から慌てて帰るの図」である。時間にすれば20秒程度、転換幕の前をシンデレラとネズミ達が駆け抜けるだけのシーンだが、気の利いた短いセリフに加え、何よりシンデレラの腕の中にはラグビーボールよろしく、戻ったかぼ

ちゃが大事そうに抱えられている。ストーリー本筋にはないが、誰も一度は突っ込みを入れたくなる「12時過ぎた馬車とネズミの顛末」を、さりげなく遊び心満載に挿入する永井さん。こんなスパイスにより「誰もが知っているお話」を大人も楽しめる想像力の世界として紡いでいく。

## 「若い世代」に何を伝え、何を繋ぐか

「稽古場は終始和やか。永井さんは常に皆と同じ視線でそこに居る」。芝居後、永井演出の印象を尋ねると、キャスト、スタッフともに同じような答えが返ってきた。永井さん自身は「僕は問題をオープンにし皆で共有したいだけ。不健康な関係性で喜劇は伝わらない。やってる側がリラックスしてないと客を笑わせることはできないからね」とサラリ。初顔合わせの某スタッフは永井演出について「具体的な演技や動きを指示するのではなく、役者から出てくるものを辛抱強く待てる人。自分で考える基本姿勢を伝えたかったと思う。誰よりも気長なんだけど、最後まで諦めないのも永井さんだった」と振り返る。

初舞台の人間も多く、歌や踊りの実績はあっても、実際に入場料を取る舞台に立つ、その意識づくりは難しい。きっと具体的な指示を与えた方が、手っ取り早く形になっていくのは十分に承知の上で、ギリギリまで待つ粘りの姿勢。そして気づく役者は気づくのだ。これが「演出の先生」の指示通りにこなせば良い発表会ではなく、自分は誰一人欠くことのできない、プロフェッショナルな芸術作品の一員なんだと。180人を越す応募者から若手中心に選ばれた32名のどれだけにそれが伝わったかが、この作品のもう一つの成果であり、永井さんの秘めた願いなのかもしれない。そしてそれは、いわゆる「東京から来た演出家先生」では決してできない仕事だろう。本公演は長い事業団企画公演の歴史の中では、話題的に突出したモノではないかもしれないが、若手の表現者、芸術家育成の立場からすれば、数年後、この舞台をきっかけに「プロの仕事の在り様」を学んだ者達の活躍に期待せずにはいられない。そんな舞台だった。



拍手と笑顔に包まれたフィナーレ

# この人と...



和紙工芸作家・日展参与

やま うち いっ せい

## 山内 一生さん 上

### 負けん気をバネに作家への道を切り拓く

染色したコウゾ（和紙の原料）を漉き込むことにより、美しい絵柄を描き出す和紙工芸。なかでも豊田市小原地区（旧小原村）に伝わる小原和紙工芸は、国内ばかりでなく、世界でも高く評価されている。現在、小原に工房を構える山内一生さんは、その代表作家。後進の指導にあたりながら、82歳となる現在も第一線で制作を続ける山内さんに、和紙工芸との出会いや、作家活動を始めるまでを伺った。

（聞き手：田中由紀子）

### 負けず嫌いの子供時代

「お父さん、お母さんと、一度も呼んだことがないんだ、私は」。

山内さんに、子供の頃のお話をお聞きしようとしたところ、その第一声に少々驚かされた。

「父は、私が生まれて1年2か月で亡くなりました。その後、3歳の私を置いて母が再婚。だから、この歳になるまでお父さん、お母さんと呼べなかったことが悔やしい」。

山内さんは、1929（昭和4）年に旧小原村で生まれた。母の再婚後は、同村で農業を営む父方の祖母が引き取って育ててくれた。



小学5年生の頃

「小学校の授業参観には、友達みんな母親が見に来るのに、祖母は仕事があるから来てはくれなかった。遠足の時も、祖母はリュックサックというものを知らなくて、私がいつものかばんで行くと『あいつ、かばんしょっとる』と、友達に笑われました」。

祖母と二人きりの寂しさや父母がいない悔し

さをバネに、ほかの子に負けるものと懸命に勉強した。

「学校から帰っても祖母は畑に出ていて家にいないので、一人で絵をよく描いていました。学校の廊下や玄関に張り出されましたし、学校でただ一人、知事賞をもらったこともありました」。

### 中学時代に学んだ世渡り術

小学校を卒業後は、譽母中学校（現在の豊田西高校）に進学。

「家は貧しく、祖母はひらがなしか読めませんでした。死んだ父を師範学校まで出した人でした。『いずれ私は死ぬから、この子には知恵をつけておかないといけない』と、ちくわを持って進学を頼みに来たという話を担任の先生から聞いた時には、涙が出ました。豊田に中学校と女学校が1つずつしかなかった時代にです」。

そんな祖母が、中学1年生の3学期に亡くなる。学校を続けるには、学費や下宿代、生活費が必要だが、山内さんにはそんなお金はない。退学を覚悟した時、親戚が心配しなくていいから学校を続けるよう言ってくれた。

「それまでは人に負けないようにとがんばってきましたが、この時から人を頼ることができるようになりました。夏休みや冬休みには帰る家がないので、金持ちの友達の家に行ったり。それでだんだん居づらくなると、ほかの友達の家へ行くんです。世渡りというか、人生哲学を学びました」。

## 藤井達吉との出会い

中学校を卒業して小原に戻ったが、村には働くところがない。親戚だった妻と結婚し、妻の家に居候しながら農業の見習いをやっていた。そんな時、小原にやって来たのが藤井達吉だった。

「藤井先生の指導の下、村の若者4名で合作した和紙漉き込みの作品《つるし柿》が日展に入選し、そのお祝



継色紙屏風の前の藤井達吉

いの会が役場であったので、私も見に行ったんです。先生は和服を着て、ひげを生やして、杖をついていて、いまで言うとテレビドラマの水戸黄門のような雰囲気でした」。

室町時代に紙漉

きたとされる小原では、農閑期の副業として和紙が漉かれていた。当時は、番傘紙や障子紙、凧紙などとして生産されていたが、村の若者に和紙工芸の高度な技術と美術観を伝え、小原和紙を芸術の域に高めたのが、村に疎開してきた藤井達吉だったのだ。



藤井達吉と小原の若い作家たち  
(山内さんは前列左から1人目)

「傘の紙はいずれビニールになる。せっかく良質な和紙を漉く技術があるのだから、日用品の単なる白い和紙ではなく、きれいに染色して付加価値をつけた美術品をつくりなさい。そうすれば収入も増え、村が豊かになると、私たちに教えてくれたのが先生だったんです」。

藤井達吉の言葉とその圧倒的な存在感に、多くの小原の人々が魅了された。当時、小原には副業に和紙を生産していた家が12軒あったが、山内さんの家はそうではなく、紙漉きの経験はなかった。

「紙漉きの作品そのものよりむしろ、先生の人間性に魅力を感じました。『技術は盗まれん、落としゃせん、重たあない、焼けやせん』と。そんな素晴らしい財産を、惜しげもなく私たちに教えてくれるというんですから」。妻の

父である伯父も「一生は絵がうまかったし、ここには働くところもないから、いっぺん先生のところに行ってみろ」と背中を押してくれた。

「それで先生のアトリエに通って技術を学び、日展に出品するようになりました。先生と出会わなかったら、きっと代用教員か、郵便局が役場に勤めていたと思います」。

## 「藤井ボケ」と馬鹿にされても

それからは農業の傍ら、藤井のアトリエに通って制作した。日展には毎年出品をするも、落選が続いた。



入魂の大作《大樹》1965年

「日展に入選するまでは『藤井ボケ』とみんなに馬鹿にされた。でも妻が『私がミシンで家計を助けるから、先生を信じて続けて』と支えてくれました。でも、悪口を言った友達には感謝しています。『なにくそ、絶対に負けたくない』と、それをバネにしてがんばれたのですから。私がいい時代に生まれて、絵が売れるようになったからそう思えるわけですが」。

そして1953(昭和28)年、ついに日展初入選を果たす。入選作は、藤井達吉の指導の下、藤井の出身地、碧南で描いたイチジクをモチーフにした2枚折れの屏風だった。

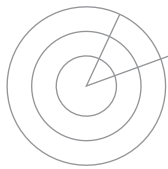
「6~7回落選した後だったので、とにかくうれしかった。当時は入選の連絡が電報で届いたのですが、郵便が待ち遠しかった。電報が届いた時には、配達員が神様に見えました」。山内さんの作家としての人生が開けた瞬間だった。



制作風景

(次号に続く)

# ピックアップ



## 歴史を刻んできたハードとソフト

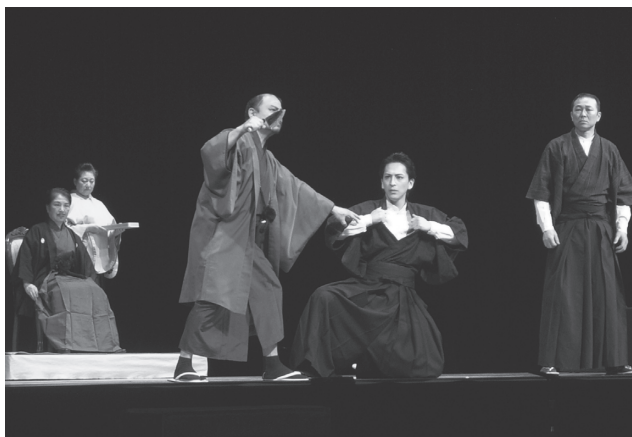
去る2月11日、中区金山の中京大学文化市民会館で「市民会館開館40周年記念・芸団協中部30周年記念 芸能サロン公演」が開催された。各々に40年、30年と継続して今日に至る。その間には社会状況の様々な変動があった。

市民会館は、開館当時、数少ない本格的な劇場として名古屋の文化の拠点となり、市民待望の施設であった。大・中ホール共に9割以上の利用で国際的な公演などや、本格的音楽の発信を担ってきた。県芸術劇場が開館された後は、市民団体やアマチュアなどの利用が大変多く、高い利用率で定着している。市民会館館長の江崎伸治氏は「今後も利用者に喜んでもらえるようにサービスにウエイトを置き、スタッフの意識・能力の強化をはかるなどニーズに応える努力を重ねていきたい」と明るく答えられた。

一方、芸団協とは「日本芸能実演家団体協議会」といい、東京に本部をおき中部と関西の2外郭団体で構成されている。その目的と事業は、芸能実演家の活動の推進、地位の向上、実演に伴う権利を擁護したり円滑な利用を図り、文化の発展に寄与することである。会員は団体で、中部では、「名古屋洋舞家

協議会・社団法人現代舞踊協会中部支部・名古屋放送芸能家協議会・能楽協会名古屋支部・名古屋邦楽協会・日本音楽家ユニオン中部地方本部・日本児童青少年演劇劇団協同組合東海北陸支部・社団法人日本奇術協会中部支部・公益社団法人日本バレエ協会中部支部・日本演出者協会東海ブロック」の10団体である。このように多様な団体と連携して実演家の交流や援助をしていく存在は意義あるといえる。

節目ごとに大きな企画公演が開催されてきたが、今回は「まつりびとの宴」と題し、中部地方に纏わる芸能を太古より現代までの時代の流れに沿って、ダンス、演劇、音楽、マジック、伝統芸能、人形劇、道化師など多彩な内容で表現された。台本・演出の菊本健郎氏は「{まつりびと}とは、本来芸能が誕生した由来である{まつり}を行う人々、つまり芸能者を意味しているし、伝承されてきた」と語られた。芸団協中部協議会会長 関山三喜夫氏は「公益法人への移行に伴う厳しい現実があるが、こういう時代であるからこそ文化、芸術、芸能の大切さをアピールし、実演家を支え、横の絆も大切にして維持していきたい」と力強く語られた。(K)



演劇・坪内逍遙によるシェイクスピア抜粋 上演「ベニスの商人・法廷の場」



総出演のフィナーレ



# 名古屋市民芸術祭 2012 参加公演の募集

今年の10～11月に市内で開催する音楽・演劇・舞踊・伝統芸能の4部門から、名古屋市民芸術祭2012参加公演を募ります。優秀な公演に対し名古屋市民芸術祭賞もしくは名古屋市民芸術祭特別賞を贈ります。どうぞふるってご応募ください!

## 1 参加資格

名古屋市内を活動の基盤として、恒常的に芸術創造活動を行っている団体又は個人。参加希望公演初日の時点において3年以上の活動実績が必要です。

参加回数の制限について

- (1)連続参加は2回までとします。
- (2)芸術祭賞受賞の翌年は参加できません。
- (3)参加回数が5回に達した団体(個人)は参加できません。ただし、5回に達してから2年を経過したのちは参加することができます。

## 2 参加部門

- ①音楽部門 クラシック、ポピュラー、邦楽等の公演
- ②演劇部門 演劇、ミュージカル、人形劇、朗読、話芸等の公演
- ③舞踊部門 バレエ、現代舞踊、ジャズダンス、民族舞踊、邦舞等の公演
- ④伝統芸能部門 邦楽、邦舞、能楽等の公演

(注)各部門に掲げられているジャンルは、参考例示です。  
参加される部門につきましては、参加希望者が選択してください。

## 3 参加の条件

### ①公演内容

参加者の主催・制作・出演による公演で企画性に富み、意欲的な内容を持った市民芸術祭にふさわしい作品であることを必要とします。教室等のおさらい会、発表会、チャリティー公演、政治的・宗教的意図の顕著な公演などは該当しません。

### ②参加方法

- (1)参加は公演単位とします。ただし、2部以上の構成による公演のうち、一つの部を参加の単位とすることもできます。
- (2)同一の団体又は個人による参加は1公演に限ります。

### ③参加期間

10月1日(月)から11月30日(金)までとします。

### ④公演会場

- (1)名古屋市内に限ります。
- (2)野外は不可とします。
- (3)公演の全客席数が200席以上であることを条件とします。  
(全客席数=公演会場の客席数×公演回数)

## 4 申し込み方法

### ①申込書の請求

所定の申込書を請求していただきます。次の(1)～(4)を明記のうえ、ハガキ又はFAXで、申し込み先へ請求してください。折り返し申込書を郵送します。

- (1)郵便番号・住所
- (2)団体名及び代表者職氏名(個人は氏名)
- (3)電話番号
- (4)参加希望部門

### ②申し込み期限

申込書に必要事項を記入のうえ、提出してください。  
〈郵送〉5月17日(木) [消印有効]  
〈持参〉5月18日(金) (17:00)

## 5 参加公演の決定

公演内容について審査のうえ、参加公演(20公演以内)を決定し、申込者に通知します。なお、審査内容につきましては一切お答えすることができませんのでご了承ください。

## 6 参加助成金の交付

参加公演については、公演経費の2分の1以内で助成金(上限5万円)を交付します。なお、参加公演になりますと、他の名古屋市の助成等は、重複して受けることができない場合があります。

## 7 授賞

参加公演のうちから参加部門ごとに、優秀な公演に対して名古屋市民芸術祭賞もしくは市民芸術祭特別賞を授与します。

## 8 参加公演主催者の手続き

参加公演については、次の手続きを必要としますので、あらかじめご了解ください。

- ①参加公演の宣伝広告物に、指定の文字を明示していただきます。
- ②名古屋市民芸術祭賞に関する実地審査等のため、必要な入場券を提出していただきます。

## 9 その他

今回の募集内容は平成24年3月1日時点の予定であり、一部内容を変更する場合がございますので、ご了承ください。お申し込みの際にいただいた個人情報、市民芸術祭に関する事業以外では、使用いたしません。

問い合わせ・申し込み 名古屋市民芸術祭実行委員会事務局  
公益財団法人 名古屋市民文化振興事業団  
〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8階  
TEL(052)249-9387 FAX(052)249-9386  
受付時間/月曜日～金曜日の9:00～17:00(但し祝日を除く)

# 伝統文化シネマ鑑賞会 4・5・6月

優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。無料(当日先着順)

日時・会場  
上映作品  
問い合わせ

4月25日(水) 14:00～ 守山文化小劇場(定員:400名) TEL 052-796-1821 FAX 052-796-1822  
①漆芸 「変幻自在一田口善国・蒔絵の美」 ②陶芸 「備前焼 伊勢崎淳の挑戦-伝統と革新のはざまで-」  
(36分・1993年完成) (33分・2007年完成)

5月23日(水) 14:00～ 北文化小劇場(定員:297名) TEL 052-910-3366 FAX 052-910-3367  
①金工 「加賀象嵌 中川衛 美の世界-新たな伝統を創る-」 ②長野 「伊那人形芝居-明日へつなく伝承のチカラ-」  
(39分・2011年完成) (36分・2010年完成)

6月29日(金) 14:00～ 港文化小劇場(定員:350名) TEL 052-654-8214 FAX 052-654-8215  
①人形 「にんぎょう」 ②陶芸 「志野に生きる-鈴木藏-」  
(34分・1992年完成) (33分・2000年完成)

主催 公益財団法人 名古屋市民文化振興事業団 / 公益財団法人ポラ伝統文化振興財団

# 文化小劇場 芸術三昧!シリーズ

「文化小劇場芸術三昧シリーズ」は、名古屋市内各区にある文化小劇場を会場とし、質の高い公演を地域の方々に身近に気軽に鑑賞していただけます。生の芸術の感動・素晴らしさに触れていただき、地域文化の振興に寄与したいと考え実施いたします。上期は6月、7月に多彩なラインナップで7公演を実施します。

☆問い合わせ 名古屋市文化振興事業団チケットガイド(ナディアパーク8階) TEL 052-249-9387

## 新垣勉コンサート「愛と平和の名曲を歌う」

マリオ・デル・モナコを育てたヴォイストレーナーの世界的大家、A・バランドーニ氏に師事。バランドーニ氏に「日本人離れた明るさを持つ声。この声はラテン系のお父さんがくれた宝物」と激賞された美声のテノール歌手です。大ヒット曲「さとうきび畑」を始め、「アメイズング・グレイス」「ソレアード」「雨ニモマケズ」などをお届けします。

日 時	6月8日(金) 18:30
会 場	南文化小劇場
料 金	3,000円 <全指定席> ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



## 柳家権太楼 独演会

「待ってました!」と声が飛ぶ、「寄席の爆笑王」柳家権太楼師匠が北文化小劇場に登場! 会場を笑いの渦に巻き込む力強く明るい滑稽噺から涙を誘う人情噺まで、その至芸をたっぷりご堪能ください。

日 時	6月16日(土) 15:00
会 場	北文化小劇場
料 金	3,000円 <全指定席> ※椅子席と座布団席がございます。 ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



## 平野啓子「平家物語」と「古事記」を語る

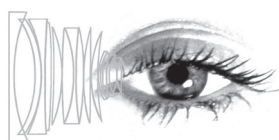
「NHKニュースおはよう日本」のキャスターや大河ドラマ「毛利元就」、「義経」の「義経紀行」の語りで知られる語り部・平野啓子。舞台では古典から現代まで名作の語りを総合芸術として光や音響、季節の風物を生かし独自の世界を切り開き、空間エンターテインメントを創造しています。文化庁芸術祭大賞など多くの賞を受賞している語りの芸をお楽しみください。

日 時	6月22日(金) 18:30
会 場	東文化小劇場
料 金	3,000円 <全指定席> ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



### 舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム  
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム部門  
AV機器販売部門(家庭用)  
映像企画・制作部門  
放送関連部門  
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る  
生きた情報を発信

TVS 株式会社 東海ビデオシステム  
名古屋市中区上津二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(芸能部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守



株式会社エーアンドブイ

T 464-0846  
名古屋市千種区城木町二丁目98  
TEL 052(761)5400  
FAX 052(761)0909

## 溝口肇 チェロリサイタル

長寿番組「世界の車窓から」やドラマ「星の金貨」「ビューティフルライフ」のテーマ曲でお馴染み! 作曲家として自らの作品を発表し活躍する一方、映画、アニメ、ドラマなどの楽曲を多数手がけている超有名にして一流のチェロ奏者 溝口肇のステージをご堪能ください。

日 時	7月6日(金) 18:30
会 場	緑文化小劇場
料 金	4,000円 <全指定席> ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



## 川島成道ヴァイオリンリサイタル~ピアニスト 佐藤和子を迎えて~

視覚障害を負った幼少期にヴァイオリンに出会い、桐朋学園大学卒業後、英国王立音楽院へ留学。同音楽院史上2人目となるスペシャル・アーティスト・ステイタスの称号を授与され首席卒業。1998年のデビュー以来英国と日本を拠点にソリストとして精力的な活動を展開しています。昨年の公演が好評をいただき、アンコールで登場です。

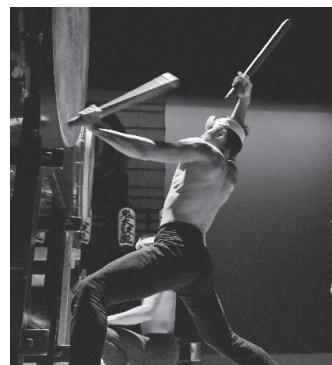
日 時	7月13日(金) 18:30
会 場	名東文化小劇場
料 金	3,500円 <全指定席> ※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



## 鬼太鼓座・ナウ

鬼太鼓座は和太鼓を中心とした、西洋音階を意識しない自由で躍動感のあるリズムと音域の幅、またその中から生まれる自由な音楽の発想から、舞台表現の可能性を追求し続けています。演奏者が全力で打ち込む音だけが聴衆の心に響く力を持っています。大人から子どもまですべての人が楽しめます。(本公演は小編成で行う特別公演です。上演時間60分)

日 時	7月20日(金) 18:30
会 場	港文化小劇場
料 金	シングル 1,500円 ペア 2,800円 <全指定席> ※未就学児入場可 ※3歳以上有料 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



## 古謝美佐子コンサート「沖縄のこころのうた 2012」

沖縄県出身で沖縄民謡歌手であり、沖縄ポップグループ「ネーネーズ」の初代リーダーであった古謝美佐子。代表曲「童神」は、新しい沖縄を代表する子守歌としてブームを起こしました。沖縄の人の温かさを感じさせる伝統的な民謡や情け唄と呼ばれるしっとりとした情感を込めた島うた、そしてオリジナル曲を三線とともにお届けします。

日 時	7月26日(木) 18:30
会 場	中川文化小劇場
料 金	3,000円 <全指定席> ※未就学児入場可 ※3歳以上有料 ※事業団友の会会員1割引(前売のみ)



## 文化芸術の 相談窓口 開設

文化芸術の創造活動、参加、施設利用、鑑賞に関する相談窓口を開設します。お気軽にご相談ください。

窓口 公益財団法人名古屋文化振興事業団  
事業案内(ナディアパーク8階)  
TEL 052-249-9387(平日9:00~17:00)  
メールアドレス mail@bunka758.or.jp  
※土日祝・年末年始及び時間外は、  
電子メールで受付

ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい!

使う! 創る!  
観る!

## 名古屋市文化振興事業団 『友の会』会員大募集

**エンジョイコース**(年会費3,000円)  
・事業団主催公演や提携事業のチケット割引!  
・情報満載の「友の会だより」などを毎月お届け!  
・提携ショップでのお買い物の優待割引!  
・会員の皆さまが参加できるイベント開催!など

**クリエイティブコース**(年会費15,000円)  
上記エンジョイコースに加え、次の特典も受けられます。  
・会員主催の公演チラシを事業団施設に無料配布!など

詳しくは、事業団「友の会」事務局まで TEL 052-249-9385

## 「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人(椋山女学園大学文化情報学部教授)  
小沢優子(名古屋音楽大学講師)  
倉知外子(オクダ モダンダンス クラスター副代表)  
酒井晶代(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)  
田中由紀子(美術批評/ライター)  
はせひろいち(劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

## 2012年(平成24年)第2回 市民半額鑑賞会

中日劇場6月・7月・8月の公演、御園座6月・7月・9月の公演が、通常料金の半額でご覧いただけます。

### ◆申込方法

往復ハガキに下記の内容を必ずご記入のうえ、**4月12日(木)《消印有効》**までにお送りください。

〈往信(裏面)〉

- 1.希望公演番号(1枚1公演・同一番号の複数申込不可)
- 2.人数(2人まで)、3.〒・住所、4.氏名(ふりがな)
- 5.電話番号、6.車イス席希望の有無

〈返信(表面)〉

ご自分の住所、氏名(宛先) ※氏名には「様」をお付けください。

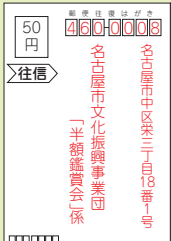
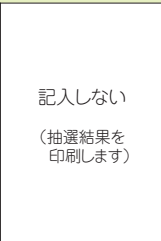
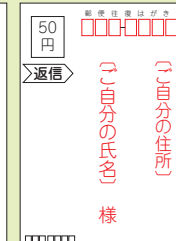
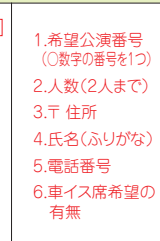
### ◆問い合わせ・申し込み

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号  
名古屋文化振興事業団事業案内「半額鑑賞会」係  
TEL(052)249-9387 FAX(052)249-9386

### ◆主催

公益財団法人名古屋文化振興事業団、名古屋市、  
社団法人日本演劇興行協会、中日劇場、御園座

### ◆往復ハガキの記入例 ※赤字のようにご記入ください

往信(表面)	返信(裏面)	返信(表面)	往信(裏面)
			

※応募結果につきましては、4月23日(月)以降、返信ハガキにて通知いたします。

### 【注意】

- チケット料金の他に、取扱手数料(1枚につき300円)、払込手数料およびチケット郵送料が必要です。
- 車イス席をご希望のお客様は、必ずその旨をご記入ください。

【お知らせ】次回は平成24年8月上旬に10・11・12月公演を募集する予定です。

### ◆公演内容

	演目	公演番号	日	時	料金・定員	
中日劇場	志村けん一座 第7回公演 志村魂 -新作「先づ健康」- 【出演】 志村けん、ダチョウ倶楽部、 桑野信義 ほか	①	6月14日(木)	17:00	■A席(2階) 9,500円を 4,750円に (各200人)	
		②	6月15日(金)	13:00		
		③	6月19日(火)	17:00		
		④	6月20日(水)	17:00		
	コロッセ 特別公演 【出演】 コロッセ、左とん平、佐藤B作、 あめくみちこ、おりも政夫 ほか	⑤	7月10日(火)	16:00	■A席(2階) 10,000円を 5,000円に (各200人)	
		⑥	7月12日(木)	16:00		
		⑦	7月23日(月)	16:00		
		⑧	7月25日(水)	16:00		
	ミュージカル「エリザベート」 【出演】 春野寿美礼、瀬奈じゅん(Wキャスト)、 山口祐一郎、石丸幹二、 マテ・カマラス(トリプルキャスト) ほか	⑨	8月 7日(火)	17:00	■A席(2階) 10,000円を 5,000円に (各150人)	
		⑩	8月14日(火)	17:00		
		⑪	8月16日(木)	18:30		
		⑫	8月21日(火)	18:30		
御園座	六月大歌舞伎 昼の部(11:00開演) 夜の部(16:00開演) 1. 夏祭浪花鑑 1. 石川五右衛門 2. 素襖落 【出演】市川團十郎、片岡孝太郎、 市川海老蔵 ほか	⑬	6月19日(火)	11:00	■1等席(2階) 17,000円を 8,500円に (各200人)	
		⑭	6月20日(水)	16:00		
		⑮	6月23日(土)	11:00		
		⑯	6月24日(日)	16:00		
	前川清 特別公演 1. 浪花の鯉の物語 2. 前川清 ドリームステージ 【出演】前川清、愛華みれ、 渋谷天外、小島慶四郎 ほか	⑰	7月 7日(土)	16:30	■1等席(2階) 13,000円を 6,500円に (各200人)	
		⑱	7月 9日(月)	12:00		
		⑲	7月16日(月・祝)	12:00		
		⑳	7月18日(水)	16:30		
	五木ひろし 特別公演 1. 長良川艶歌 2. ビッグショー 2012 【出演】五木ひろし ほか	㉑	9月12日(水)	16:00	■1等席(2階) 14,500円を 7,250円に (各200人)	
		㉒	9月15日(土)	16:00		
		㉓	9月17日(月・祝)	11:00		
		㉔	9月20日(木)	11:00		